

マウス血清再現実験 実施工程

実験施行日	時刻	事項	実験実施者	立会い	撮影者	記録者
平成28年10月3日 (月)	9:27~10:12	マウス脳の切片の脱パラフィン	[REDACTED]	[REDACTED]	医学部事務部	研究支援課
	10:12~10:23	脱イオン水による洗浄				
	10:23~10:40	マイクロウェーブ処理				
	10:40~11:39	冷却				
	11:40~11:51	脱イオン水による洗浄				
	11:52~12:08	PBSの浸透				
	12:09~13:13	BSAによるブロッキング				
	13:15~13:35	PBSの浸透・一次抗体の調整				
	[REDACTED]	[REDACTED]に移動				
	13:46~over night	一次抗体の添加・反応				
[13:51]	[REDACTED]施錠 ※鍵は研究支援課で保管					
平成28年10月4日 (火)	8:45~9:03	PBSの浸透	[REDACTED]	[REDACTED]	医学部事務部	研究支援課
	8:47~19:05	二次抗体添加・反応				
	[9:14]	[REDACTED]施錠 ※鍵は研究支援課で保管				
	19:06~19:28	PBSの浸透				
	19:30~20:20	封入後、共焦点レーザー顕微鏡にて観察・撮影(旭総合研究棟)				
	14:34~17:21	封入後、共焦点レーザー顕微鏡にて観察・撮影(旭総合研究棟)				
平成28年10月5日 (水)			[REDACTED]	[REDACTED]	医学部事務部	研究支援課

平成 28 年 10 月 11 日

調査委員会委員長殿

研究担当理事

中村 宗一郎

マウス血清再現実験の結果について

平成 28 年 7 月 29 日に産婦人科教室から回収したマウス血清 6 検体について再現実験を実施した結果が出ましたので下記のようにご報告いたします。

記

1. 実施日

平成 28 年 10 月 3 日～5 日

2. 実施場所

医学部基礎医学研究棟及び旭総合研究棟

3. 実施者

病理学系教授 (50 代男性、MD&PhD) 及び機器分析 (医学系) 教授 (60 代男性、PhD)

4. 方法

- (1) ██████████ から提出されたプロトコールに忠実に従って実施した。
- (2) 供試試料には、NF-kbP₅₀ 欠損マウスにサーバリックス (HPV) あるいは生理的食塩水 (PBS) を接種後、9 ヶ月及び 22 ヶ月飼育後に採取した血清 6 検体を用いた。
- (3) 2 次抗体には Alexa488-anti-mouse IgG 及び Alexa546-anti-rabbit IgG を使用した。

5. 結果

共焦点レーザー顕微鏡観察の結果、図 1 に示すように、今回の実験では ██████████ がプレゼンテーションに用いたような結果を再現することはできなかった。

6. その他

- (1) 供試試料の残液 (半量以上) は、引続き保存管理下 (-80℃) に戻した。
- (2) 免疫染色から顕微鏡観察までの全て (3 日間) をビデオ撮影した。ビデオ撮影にはソニーデジタルビデオカメラ「ハンディカム」HDR-XR500V 型及びアイ・オー・データネットワークカメラ「Qwatch (クウォッチ)」TS-WPTCAM 型の 2 台を用いた。

以上

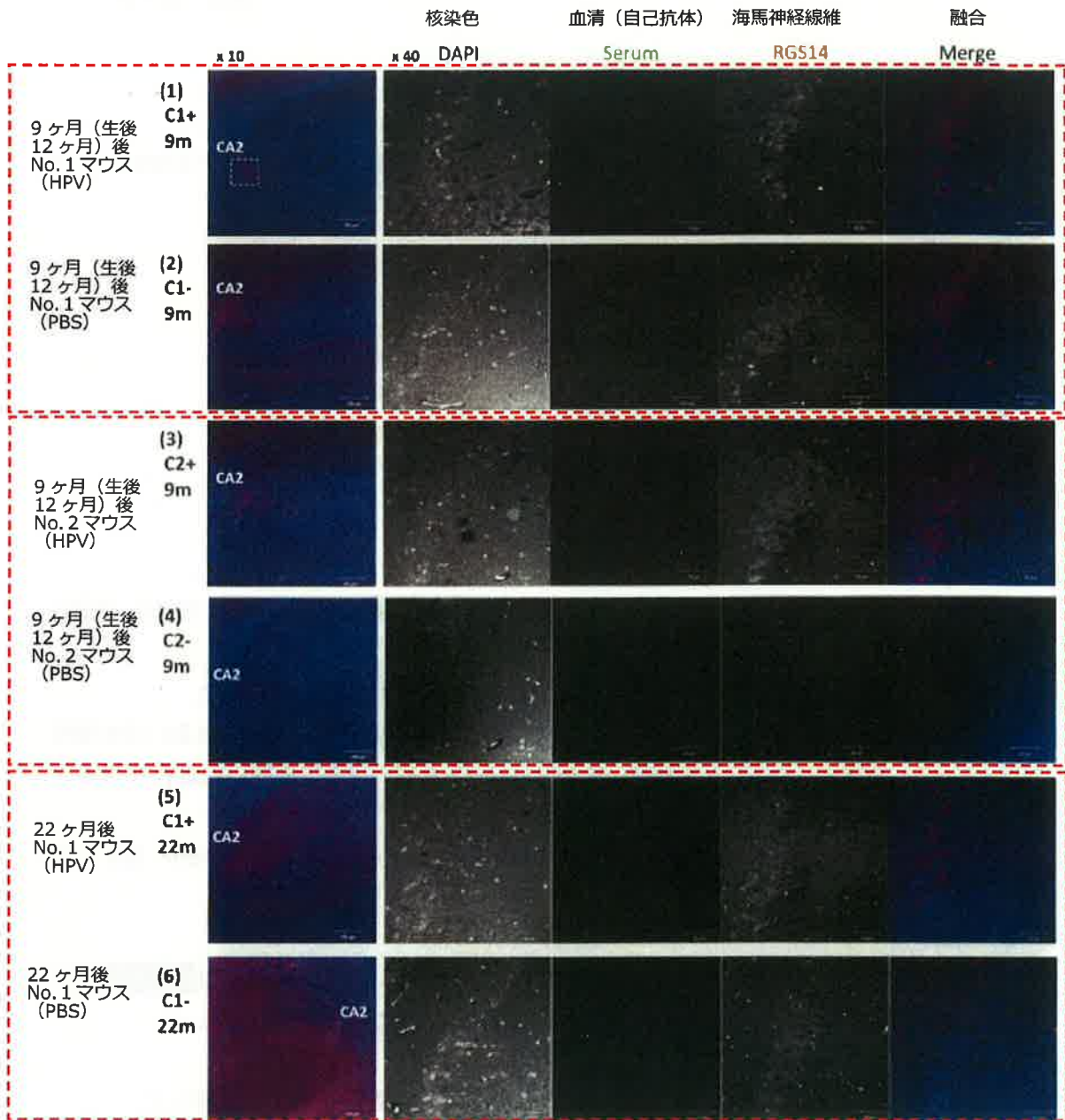


図1 共焦点レーザー顕微鏡観察の結果

C1+及びC2+はサーバリックス接種マウス (HPV)、C1-及びC2-は生理的食塩水接種マウス (PBS) を示す。